



～枕崎市教育委員会だより～

TEAMまくらざき

発行 枕崎市教育委員会
枕崎市中央町184番地
TEL 0993-72-0170
FAX 0993-72-0677

巻頭言

「3.11」あの災禍を忘れない

枕崎市教育委員会 教育長 木之下 浩一

1月が行き、2月が逃げようとし、去ると言われる3月に入ろうとしている。気が付けば、令和8年が幕を開けてからはや2か月が過ぎる。

3月は年度末の締めや人事異動等、行事が目白押しであり、忙しさに追われて、つい失念してしまう災禍がある。それは、3月11日の東日本大震災、いわゆる「3.11」だ。地震だけにとどまらずその後、短時間で迫ってきた大津波が太平洋岸の東北地方を中心に襲い、多くの犠牲者が出た未曾有の大災害だった。

筆舌に尽くしがたい傷あとを残したあの災禍から既に15年経った。吹く風は毎年、春の訪れが近いことを告げてきたが、被災した人やその家族、関係者等多くの人たちは、今なお心に負った深い傷を癒しきれないまま、厳しい寒さの中で立ちすくんでいる。

一方、惨禍に遭わなかった人たちは、ともすれば日々の生活に取り紛れ、心に深い傷を負った人たちに思いを馳せることも薄れていく。そしていつしか、何事もなかったかのように日々を過ごすようになってしまう。

私はこの震災から5年後、友人のいる宮城県を訪れ、復興の最中の様子を見た。景勝地である松島の最寄り駅の閑散とした様子や、津波に襲われ火災に遭った建物の火が燃え移り校舎が全焼した石巻市の門脇小学校の悲惨な様子を目の当たりにした。その日まで確かに存在した学校が一瞬にして消えてなくなった事実がく然とした。現在は「石巻市震災遺構門脇小学校」として公開されている。また、石巻市の高台で海岸が一望できる日和山公園に登ってみると、一面何も無い広大な敷地が目に入り込んできた。港に面した街の全てが一瞬にして津波に飲み込まれ、砂埃の上がる更地となっていた。開発途中で重機やダンプカーが行き交う様子を見ながら、復興にはまだ相当な時間を要すると感じた。そのような光景を目にしなが、あの衝撃的な震災からわずか5年しか経っていないのに自分の記憶が薄れていっていることにも気付かされた。

いうまでもないことだが、大災害や思いがけない事故などに見舞われたときには、周りの者たちが災難に遭った人たちの思いを汲み取ったり、苦しみを分かち合ったりしたいとどんなに望んでも、実際に経験していない以上、そうした人たちの本当の気持ちは理解できないだろう。しかし、それでもできることはある。しなくてはいけないことがあると思う。

それは、大災害等の事象をいつまでも忘れないこと。その出来事を決して風化させないこと。そして、苦難を耐えている人たちの気持ちを汲み続けること。そこから、きっと今、自分ができることが見えてくるにちがいない。

かつて学校に勤務する頃、私は大震災の経験がないからこそ、震災後の状況を目の当たりにして感じた衝撃や大きな災害後には、被災者が無力感や孤独感に苛まれないよう、継続的に声をかけ合い、支え合うことが非常に重要であること等の被災者の教訓を子供たちや職員に伝えてきた。

世界有数の地震大国である日本。毎日のように、日本各地で地震が観測されていることから災禍はいつ、どこで誰に降りかかってくるかわからない。「備えあれば憂いなし」。「3.11」のあの惨禍を心に焼き付け、常に自分事として考えるようにとこれからも伝え続けていきたい。

3月の行事予定		
日	曜	行 事
1	日	
2	月	図書館休館日 県立高校卒業式
3	火	
4	水	第5回事務職員研修会・公立高校入試
5	木	公立高校入試
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	図書館休館日
10	火	
11	水	中学校卒業式・地区館連絡会②
12	木	公立高等学校合格発表
13	金	
14	土	土曜授業
15	日	家庭の日 市民会館休館日
16	月	図書館休館日
17	火	
18	水	すくすく講座
19	木	市民あいさつ運動
20	金	春分の日
21	土	青少年育成の日
22	日	
23	月	図書館休館日
24	火	小学校卒業式・3学期給食終了(中学校)
25	水	小・中学校修了式
26	木	館内整理日(図書館) 春季休業(~4/7)・市子連会計検査
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	図書館休館日
31	火	

市生涯学習フェスティバル

2月8日(日)、令和7年度枕崎市生涯学習フェスティバルを市民会館大ホールで開催し、336人の方々に来場していただきました。当日は開会行事の後、青少年健全育成や社会教育に尽力された個人・団体の方々の表彰、県国際協力体験事業参加者による体験活動発表、小園・宇都子ども会による活動発表、市民生活課によるゴミ出し講座が行われました。

講演では、MBCタレントの竹之内雄太さんが学生の頃のお話や東京でお笑い芸人をしていた頃の思い出などについて楽しく語ってくださりチャレンジすることの大切さについて学ぶことができました。

最後は、竹之内さんの仲間であるPartyさんや乾き亭げそ太郎さん、鹿児島大学の学生さんによるお笑いミニライブも行われ、子供から大人まで笑いに包まれる時間になりました。

また、会場には学びの成果である各種作品等の展示も行い、今年度の学びを振り返る意味でも有意義な機会とすることができました。開催にあたり、ご協力いただきました関係者の皆様、誠にありがとうございました。

枕崎市生涯学習フェスティバルの様子



多様な子供たちを尊重する教育～特別支援教育～ 数字で見る「特別支援教育支援員」

「特別支援教育支援員」とは、多様化する学校の児童生徒を支援するために各学校に配置している職員です。常に複数の目で支援することで、子供たちが安心して学ぶことのできる体制を整えています。今回は、枕崎市の「特別支援教育支援員」がどれくらい充実しているか、数字で見てください。

枕崎市では、たくさんの支援員の皆さんが子供たちの安全・安心を見守っています



5時間45分

特別支援教育支援員が1日に勤務する時間です。子供たちが学校にいる時間、サポートができるように雇用しています。

100%

枕崎市の全ての学校に特別支援教育支援員は配置されています。どの学校でも安心して学ぶことができます。

3.6人

特別支援教育支援員の1学校あたり平均在籍数です。ほとんどの学校で複数人員(2人以上)を配置しています。

南薩地区教育論文

Q: 教育論文って何ですか?



A: 教育論文は、先生たちが自分の実践(授業など)を記録に残したものです。

枕崎市の教職員は、いつも研究と修養に努め、子供たちのために専門性を高めています。その成果として「教育論文」を提出し、今年度も南薩地区で多くの表彰を受けました。

学校賞(団体賞)
桜山小学校 別府小学校 立神中学校

奨励賞(団体賞)
桜山中学校 別府中学校

個人表彰
特選・・・市で8人 準特選・・・市で6人

おめでとう!

枕崎牛生産者との交流授業とおすすめ献立

1月19日(月)に桜山小学校で、枕崎牛生産者と3年生児童との交流授業が行われました。児童は、生産から出荷までの説明や生産者の思いを聞き、地元食材への関心が深まっているようでした。この日の給食は、枕崎牛を約80kg使用した「枕崎牛のサイコロステーキ」でした。これは、本市の給食の質の向上に取り組む地場産物活用事業により提供したものです。サイコロステーキは、肉の柔らかさやうま味をより感じられるため、枕崎牛献立の中でも特に人気があるおすすめメニューです。

交流授業後の給食では、残さずに食べようとする児童の姿がみられ、生産に関わる方々へ感謝して食事をする大切さを学んでいました。

